

第2回「地域フォーラム」概要
 開催テーマ「もっと良くなる奈良を目指して」
 日時 平成26年12月23日(火)13時～15時30分
 会場 奈良県社会福祉総合センター 5階研修会B・C

挨拶・ 資料説明	荒井奈良県知事 地域フォーラム開催の挨拶 地域の現状等について説明 <ul style="list-style-type: none"> ・雇用状況、就業率、就業者割合等 ・産業・農業について ・経済の状況(県外消費率)について ・観光(観光地・宿泊者数)について ・健康(健康寿命・がん検診受診率)について など
取組説明 ①	森下橿原市長 橿原市の現状と行政の取組について説明 <ul style="list-style-type: none"> ・橿原市の子育て支援事業(独自のこども園への取組について) など
取組説明 ②	松井桜井市長 桜井市の現状と行政の取組について説明 <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活かしたまちづくりについて など
取組説明 ③	植村高取町長 高取町の現状と行政の取組について説明 <ul style="list-style-type: none"> ・財政再建及び財政力強化に向けた取組について ・「薬のまち高取」の復活、高齢化に対応できるまちづくり など
取組説明 ④	森川明日香村長 明日香村の現状と行政の取組について説明 <ul style="list-style-type: none"> ・明日香村の地域活性化の取組(文化財とともにどうやって生きていくのか) など

意見発表 ①	森岡氏(檀原市在住 女性) 「子育てを通して感じること」ー子育てと仕事を両立するための環境整備ー
	<p>それでは、子育てを通して感じることということで、保育所とこども園を利用して感じたことをお伝えいたします。</p> <p>私は、13歳、10歳、7歳の3人の子どもを持つ母親で、結婚する前から働いておりまして、現在も働きながら子育てをしております。3人の子どもたちは保育所を利用していました。一番下の7歳の子が4歳になった時に、保育所がこども園として開園いたしました。こども園が開園したことによって保育所と幼稚園が一体化し、友達がたくさんできて、いろいろなことを経験し、毎日楽しく過ごしていたように思います。</p> <p>保育所がこども園になるまでは敷地も狭く、年齢に合った十分な園庭がなかったように思います。その中でも、先生方は狭い園庭で工夫しながら遊ばせてくださったり、月に何度か幼稚園とも交流させていただいていました。そのように嬉しそうに過ごしている姿をよく覚えています。反対に、常に周りには自分より小さなお友達もおり、園庭で遊ぶ際には注意をしないといけないことも多く、小さいクラスのお友達が遊んでいる時はボールを投げたり蹴ったりすることができないんだということや、端っこの方で遊ばないといけないんだということも、子どもながらも感じてくれていたように思います。これは毎日一緒に過ごしていることで、相手のことを意識して考えながら生活していたんだということがわかります。</p> <p>母親としては、長時間部と短時間部の子どもと一緒に生活するのは戸惑わないのかなというのを一番思ったんですけども、子どもは順応性がありますので、特に心配なく、戸惑いもなかったように感じています。それに、保育・教育の幅が広がったように思います。今までとは違う形で毎日過ごす姿や新しいお友達のことも覚えているのを見て、安心いたしました。</p> <p>また、短時間部、もともと幼稚園に通っておられたお子さんのお母さんからは、「人数が少ないので、なかなか大人数の中で遊ぶということもなかったのが、人数が多くなったことにより、また0歳から5歳まで年齢の幅も出ることにより、下のお子さんと一緒に遊んだり、優しさや思いやりの気持ちが生まれたり、また憧れの気持ちが生まれたり、ということもあったんじゃないか」というお話を聞くこともできました。</p> <p>また、こども園の先生方への関わり方も、最初はどうかかなという部分があったんですけども、短時間部、長時間部の先生とも、それぞれつながりができてよかったと思っています。</p> <p>また、幼稚園、保育所と、もともと組織が違うので、それぞれPTAの役員さん、保護者会の役員さんとお話を進めていただく中で、話し合いがたくさんあったかと思います。「檀原市のこども園は保育所と幼稚園の良いところを生かして進めていきます。」ということだったので、こども園での2年間は両方の良いところを取り入れてもらって生活させていただけたのかなと思います。</p> <p>私はこども園がスタートして2年間利用しました。大変なこともあったと思いますが、保護者の意見も十分に聞き入れていただきまして、1年ごとにより良いこども園になって、安心して利用できたと思います。今後も利用される方に、そのように思っていたいただけるような形で進めていただければ大変ありがたいと思います。</p> <p>それから、あともう1点、保育所、こども園を卒業いたしまして、その後、放課後児童クラブ(学童保育)を利用させていただいています。今は2人の子どもがクラブを利用しています。来年度から新しい制度ができて、6年生まで受け入れていただけるということも聞いております。今後も、クラブを利用する保護者にとって利用やすく、安心して子どもを預けられるような環境と子どもにとって楽しく過ごせる安定した居場所にしていただければ大変ありがたく思います。</p>

意見発表 ②	今西氏(桜井市在住 男性) 地域資源を活用した観光事業の展開
	<p>こんにちは。今西酒造の今西と申します。当社は桜井市の三輪で約350年、酒づくりをしています。銘柄は「三諸杉」という銘柄でございます。</p> <p>当社では、2年前から地域資源を活用した酒蔵ツーリズムを企画して推進しております。その名も「酒造りの神が鎮まる地 奈良・三輪 ガイド付き聖地巡杯ツアー」というツアーについて、簡単にご紹介させていただきます。</p> <p>歴史的に見ても、当社のある三輪というところは、酒づくり発祥の地、始まりの地としても全国の酒蔵から信仰されています。いろいろな神社、また史跡というのもございますので、簡単にご紹介させていただきます。大神神社は、言わずと知れた日本最古の神社でございますが、酒の神様としても全国の酒蔵から信仰を受けています。</p> <p>酒蔵へ行かれた際に、軒先に大きな杉玉がつるされているのをご覧になられた方もおられるかと思えます。この杉玉は、北海道から九州まで、どこの酒蔵もつるしているならわしではありますが、実は、全国へこの大神神社から杉玉が届けられています。また、活日神社という摂社がありますが、こちらは日本で唯一、杜氏の神様を祭る神社でございます。</p> <p>そのように、酒との由縁が深くある地でございますので、今やっているツアーというのは、酒と三輪というテーマで、それらの箇所をガイドつきで歩いてもらって、その後、地元のお料理屋でご飯を食べてもらって、お土産も買ってもらって、蔵見学、きき酒体験というような内容でしております。</p> <p>ツアーの目的は、地域活性化でございます。地域活性化といえば広義ですので、いろいろと意見が分かれるところですが、議論ばかりしていても仕方がないということから、当社の中では、地元にお金を生み出し、雇用を創出することを地域活性化の定義として動いております。</p> <p>具体的な事例をご紹介します。まず1つは、プロのガイド育成を行っております。プロのガイドとは何ぞやということなのですが、私が考えるには、いらっしゃった観光客、参拝客の方に、おもしろおかしく三輪を楽しんでもらって、ファンになってもらって、お金を生み出せる人というふうにつえています。なかなか一筋縄ではいきませんが、ガイドの育成を地元の主婦の方を対象に行っています。</p> <p>外部からプロのガイドコンサルタントを当社が呼んできて、地元の主婦の方で地元をPRしたい方と一緒に勉強しながら育成しております。今では、地元の主婦の方がひとり立ちして、おもしろおかしく三輪のまちを案内するということにやっています。もちろんプロなので、ガイド料を当社からお支払いしています。よって、地元の主婦の方が、今お子さんが小さくて、なかなか外にパートに出られないという時にも、1時間、2時間のガイドをすることでガイド料として幾分かのお金をもらって、地元にお金を生み出すような仕組みづくりということを行っております。</p> <p>もう一つが、地元事業者へのお客さんの紹介です。地元にもお食事どころ、お土産どころ、お豆腐屋、八百屋等々、いろいろございます。私は、先ほどのガイドに、「とにかく地元の事業者に立ち寄るように」と言っています。もちろん立ち寄った場合、一切マージンは取りませんので、そこでいらっしゃった方が純粋に楽しんでもらって、お金を消費していただく。そのようにして地域連携とかをしながらか進めております。2年前、もちろんゼロから始めまして、今では月間平均300～400名ぐらいの方がいらしていただいているということで、少なからずその方が地元にお金を生み出していただいているということは、何かしら地域に貢献できているんじゃないかなというように思っております。</p> <p>ただ、実際にこういう集客をする際、各旅行エージェントに対して、当社は自社でほとんど営業活動をしているんですが、やはり自社、民間だけでは結構限界を感じております。当社がやるのは本当に飛び込み営業で、「何とか来てください」というような営業活動でございます。もっと三輪に人を呼び込むためには、もっと行政との連携や、大きな仕掛けとして人を呼び込むための仕掛けづくりが、今後必要になっていくんじゃないかというように思っております。</p> <p>まだまだ、まだ道半ばではございますが、当社においては、「酒」というキーワードで地域に貢献できればというように思っています。</p>

意見発表 ③	<p>明見氏(高取町在住 女性)</p> <p>薬草を活用した地域の発展を目指した取組</p>
	<p>高取町から来ました明見です。薬草を活用した地域の発展を目指した取組の紹介と意見発表をしたいと思います。</p> <p>ポニーの里ファームについて、少し紹介します。今から8年前に、NPO法人「ポニーの里をつくらう会」の活動を行う者たちによって、障害者や高齢者、若者を含む雇用の推進や仕事の創出ができないかと、農業経営を中心とした会社を立ち上げました。しかし、大量生産しないと収益が上がらなくて、農業経営の限界を感じていました。</p> <p>高取町も耕作放棄地や担い手不足の問題に直面してしまっていて、ポニーの里ファームだけでなく、高取町の農業もそういった課題をどうしたらクリアできるのかということも、私も含め、仲間とともに考えてきました。3年前に「薬のまち高取」を前面に出すということになり、薬草栽培とそれに伴う加工品づくりをしようと、私どもは第6次産業の認定を受け、2012年度から薬草栽培に取り組みました。素人だったんですけども、大和トウキは土地に合ったのか、根っこは小ぶりでしたが、2012年度の高取町農産物品評会で1等賞をいただきました。香りがすごくよかったです。</p> <p>2013年には、町の支援を受け、大和トウキ、ヨモギ、ハト麦、ハブソウの栽培を行うと同時に、薬草を活用した加工品の試作を行ってきました。2014年4月、自社ブランド、「やまとたかとり薬膳食房」を発足させ、対面販売で商品の試食や試飲をしていただきながら、商品の良さをアピールしています。今、新しい商品を開発中でして、トウキ葉入りのソーセージがもうすぐ完成します。加工品は何百種類もの中で、1商品がヒットするかどうかが世界だと聞きます。アイデアが浮かべば加工品をつくり、消費者の反応を見ながら改良を加えて、加工品づくりを行っています。</p> <p>薬草を使用した加工品は、なかなか売りにくいものがあります。私たちは、薬草を身近なものに感じていただけるよう、数々のイベントで薬草料理を提供してきました。情報発信することで薬草への関心を持ってもらい、私たちがつくっている加工品のブランドのファンづくりを行っています。</p> <p>「薬のまち高取」の復活を目指し、商品とともに高取町のPR活動も行っています。特に定期的に出展しているグランフロント大阪では、観光協会の方とともに、「たかとり城まつり」のイベント案内なども一緒にやってきました。こつこつと粘り強く販売していくことで、大阪の都市部の方々やバイヤーの方々に注目していただくようになりました。薬草を身近なものとして捉えてもらえるようにすることが、なじみの少ない薬草の販売拡大につながっていくと私たちは考えています。</p> <p>今後の展開については、さまざまなことを考えています。高取町の薬業連合会との連携ということで、薬草加工品の販売啓発物品として、かつて売薬に使われた紙風船を復活したり、地元の薬業連合会の方々に新商品づくりの協力をお願いしています。2015年には、「たかとり城まつり」で薬業連合会が当社のお茶の販売を予定していただいています。「薬のまち高取」の復活を目指し、商品とともに高取のPRを、今後も続けていきたいと思っています。</p> <p>地元の農家の方から薬草の原材料を調達できるよう、都市部の販売先を確保しながら、薬草栽培に取り組んでいただけるよう、地元の農家の方にアピールしていきたいと思っています。現在、町内の3農家の方が栽培に協力してあげようと言ってくれています。また、大和トウキの生ハーブとして、レストランの食材にも活用してしまっていて、現在、くるみの木さんに定期的に生ハーブを納入しています。</p> <p>ミニ薬草農園の開設、福祉農園として薬草を活用した体験プログラムの構築と事業を実施したいと思っています。また、農都交流、社員研修の受け入れ先として体験プログラムの提案、薬草ツーリズム、企業の従業員で休職中のうつ病者等を対象とした復職支援プログラムを、2015年に行政と連携して実施していきたいと思っています。</p> <p>現在、インターンシップ生も活用してしまっていて、2014年3月から学生を受け入れています。2014年7月には、ゴールドマン・サックス中小企業経営革新プログラムの支援を受けて、現在、近大生の受け入れを行っているところです。</p> <p>薬草で経営を成り立たせていくことは、難しいものがあります。売れなければ栽培も広がりませんし、取引できる農家の方々にも、未来が見えないと引き受ける人たちも減少していくと思います。地域総力を挙げて、加工業者や個人の方、農家の方、薬草に取り組む人たちが一緒になって取り組む機運が必要かと思っています。</p> <p>知事に提案ですけれども、漢方のメッカ推進プロジェクトは、食への応用を掲げておられます。私どもと同じように「薬草を活用したい」、「加工品をつくりたい」と思う人たちが取り組みやすいように、漢方のメッカ認定商品などの認定制度をつくっていただくとか、また、薬草を活用した食を中心とした薬草フェアをしていただくなど、今後検討していただければと思っています。</p>

意見発表 ④	下田氏(明日香村在住 男性) 体験交流型観光を通じたインバウンドの受け入れ推進「飛鳥で民家ステイ～体験交流で心の高まりを～」
	<p>明日香村商工会で事務局を務めております下田と申します。</p> <p>今、広域観光で、インバウンド、海外からのお客さんの受け入れを積極的に進めているところでございます。この事業を開始して4年目、海外からの受け入れは3年目となり、今ではアメリカ、フランス、オーストラリア、台湾、中国など多くの海外の学生、それから国内の中高生にも飛鳥地域で3,000泊以上の民家ステイを実施していただいております。この取組は、今、明日香村だけではなく、本日お集まりの橿原市、桜井市、高取町の受け入れ家庭の皆さんにも、たくさん受け入れていただいております。</p> <p>海外の学生さんには、飛鳥地域の歴史的資産が素晴らしいというのはもちろん、それ以上に美しい景観とか、それから地域の方々の温かいおもてなしというものに非常に好感をいただいて、高い評価をいただいております。</p> <p>実際、具体的にどういうことをしているかということですが、まず、受け入れた時に入村式というのがあります。家に行った時にどういうことをしてるのかといいますと、必ずやっていたいていますのは、一緒に食事をつくっています。旅館ではありませんので、上げ膳据え膳は絶対いたしません。必ず自分たちで食事の準備とかもしていただいております。4月の季節ですとタケノコ掘りとか、これはどの地域でも、田舎であればできるのではないのでしょうか。最後、離村式では、涙のお別れになることもしばしばでございます。</p> <p>では、実績のほうの説明です。平成23年から始めましたが、23年は2団体だけ、24年が407泊、11団体、これは全て海外からのお客さんでございます。本格的に始まりました平成25年からは2,500泊超ということで、本年度、まだ途中ですが、現時点で一応3,000泊を超すことができました。一番私どもの誇らしいことは、団体数が46団体に増えたということです。どこかの大きな受け入れ先に頼らず、小さな団体をたくさん受けてきて、その積み重ねがこの数字になったということが非常に喜ばしいことかなと思います。こういった受け入れコーディネート組織で事業を展開しております、今では広域での事業の受け入れも行っています。</p> <p>この取組をやっていく中で、いろいろ課題もございまして、たくさん来ていただきますと受け入れ民家の確保も非常に大変ですので、その軒数の拡大もございまして、また、外国人特有の文化、イスラムですとハラールへの対応もありますし、言語の対応もございまして、それから、広域連携はなかなか一筋縄でいくことではございませぬので、結構大きな課題でございまして、それから、今は飛鳥ニューツーリズム協議会というところで受け入れ組織を実施しておりますけれども、それをもう一つ大きな基盤の固い受け入れコーディネート組織に進化させていきたいと思っております。</p> <p>それから、他の地域との競争。今、日本全国全てインバウンドみたいな感じの風潮になっておりますので、そこの中でいかに生き残っていくかということ、今、非常に懸念して活動しております。こういった課題を一つ一つ改善していくことが、本事業の着実な発展につながると信じて、本日お集まりの皆さんにも、今後ぜひご協力いただきたいと思っております。</p> <p>そして、この取組は決してボランティアではやっておりません。先ほど今西さんのほうからもお話がありましたけれども、ビジネスとして地域にお金と雇用を生む、そういう目的を持ってやっておる次第でございます。ですので、例えば、我々の中では子育て世代の女性がいたり、それから、奈良県立大学の大学生も4年間ずっとおつき合いしております。そのように地域一体となって取り組んで、地域のソフトパワーで地域外からお金を集めてくる、雇用を生む、そういった取組を今後も進めていきたいと思っております。</p>

奈良女子大学文学部 寺岡教授

子育てということに関しまして、これは全ての基本になってくるのかなと思います。人口が減少していく縮小社会というのは、言い方を変えたら、全員参加社会なんですね。全員がそれぞれの持ち場、力に応じて、社会で何か役割を担ってやっていくということだと思いますので、全員参加社会として捉えれば、子育てする方が社会参加できるということは、基本中の基本だと思っております。ただ、私はその専門ではございませんので、奈良のお話とか、地域づくりのお話に関して感じたことを申します。

今、3つの観点がありました。1つは広域に展開していくにはどうしていったらいいんだろうかということ。それから、対海外ですね。インバウンドという言葉がありました。海外を分けましたら2つありまして、1つはゲストとしての海外の方にどうアピールし、わかっていただくかということ、もう一つは観光商品売り込んでいく時のルートとしての広がりということがあったかなと思います。

まず、広域性ということでは、それぞれの市町村長さんからのお話にもありましたが、やはり物語、奈良の歴史とかに関しては、それぞれ共通しているわけで、広域につながる地域であることが、奈良がオンリーワンであるところだと思うんです。

例えば、古代の都である飛鳥、それから藤原京、そこは古代ですから宗教の中心地でもあります。だから、宗教とこういう古代の都であるということとはつながってくるわけでございます。そういう宗教が昔はいろいろな役割、高い技術を持っておりますので、そういうところから薬というものが生まれてきて、お酒自体も広い意味では薬でございますので、薬とお酒というものは、ここにつながっているわけです。先ほどのお話にあった三輪の狭井神社、これは少彦名命(すくなひこなのみこと)が祭られていますが、薬の神様ではなかったかと思っております。ここでも高取町と三輪はつながるわけでございまして、そういう意味では、先ほどのお話にあった薬の加工品というものもいろいろ規制が難しいかもしれませんが、薬酒といえますか、薬とお酒というものを何か結びつけたような商品ができないだろうか、というようなことも思ったりもいたします。

お酒と薬が出ましたが、奈良県は本当に造り酒屋さんが多いです。しょうゆの醸造のところも20軒とすごく多いんです。京都は多分2、3軒しかないのかな。非常に地しょうゆがあったりするところですし、昔は豆腐を奈良から京都に販売しに行っていたぐらいの豆腐の名産地。豆腐の発祥の地と言われているぐらいですから、お酒、豆腐、しょうゆとか、米もおいしいわけですし、日本という大きな物語の中に大和、このあたりを位置づけて、そしていろいろな地域性とか特産物、地産物というものをつなげていくということで、広域連携ということではできないだろうかというような気がいたします。

それから、海外の方ですが、明日香村にしても高取町にしても、海外の方がたくさん来られてるようですけれども、ちょっと突拍子もない例かもしれませんが、私が最近行ってまいりましたのが、和歌山電鐵の「猫耳電車」です。決して便利の良いところではないですけれども、台湾、香港の方で電車が満員なんです。何回も観察に行ったんですが、和歌山電鐵が中国語の詳しい説明をちゃんとPDFでホームページからダウンロードできるようにしておいて、みんなiPadのようなものを持って、見ておられます。何人かの方からお話を聞いたんですが、日本語は全くできません。それでも個人旅行で来られたりします。シンガポールから来られた家族は、一切日本語ができない方でしたが、「カーナビは英語が使えるから、今からレンタカーを借りて白浜温泉に行く、日本語なんかできなくても、レンタカーでどこでも行けます」と英語でおっしゃいました。そんな時代ですから、ネットから簡単にとれる外国語の情報さえ用意しておいて、それにうまくアクセスしていただければ、自然にそうやって自分たちで来られる人が増えてくると思います。

また、新大宮に梅守さんというお寿司屋さんがあるんですけど、ここでは外国人のお客さんがすごいんですね。奈良寿司学校ということで、寿司の握り体験というのをやっておられるんですけど、これはEGLツアーという、香港にある観光会社のバスに直接売り込みに行かれたようです。

その結果として、香港から日本に来られる多くの方が利用されるEGLツアーのホームページには、USJジャパンと同じ大きさで奈良寿司学校と書いてあります。その横が和歌山の猫です。今、お寿司といえば奈良なんですね。奈良はすしどころ。奈良ですし食わないで何を食べるんだという状況になっています。つまり、先入観によって、地元に住んでる人間のほうが情報に遅れてしまうということがあるんですよ。

でも、こうやって外国の方がいっぱい来られると、先入観は捨てて、その枠の中に、地元ならではの人間が持つコンテンツをどのように選択的に入れていくかというふうな、発想を逆にしていけないといけない時代になっているのかなと思います。だから、そこにすごいビジネスチャンスや地域活性化のチャンスもあるのかなと、和歌山や新大宮のお寿司屋の例を見て思った次第です。

先進事例
発表

意見①	森下檀原市長
	<p>学童保育の話をしていただきましたが、実は、こども園がこれほどスムーズにできたのは、その前に取りかかった学童保育でかなり苦労をしたのが大きな要因かと思います。</p> <p>といいますのは、管轄が幼稚園は文部科学省、保育所は厚生労働省に分かれていまして、これを一緒にするという事はできません。国はその間に、内閣府が主に所管する「認定こども園」という形をつくって話を進めておったわけなんですけれども、これもなかなかうまくいかない。</p> <p>我々はこのすき間を狙ったわけじゃないんですけれども、地元だから地元のみんなで話をしながら先に進めようと、もう到底待ってられないということで、こども園を進めたのですが、よく考えると、学童保育もそうなんですよね。我々はまず、学校の中に学童保育をつくりたいというところから、平成19年から始めました。</p> <p>教育関係の施設の中に福祉が入ってくるわけですから、すごく抵抗はありました。ここにもやはり文部科学省と厚生労働省のいろいろなねじれ方があります。ただ、それを一つ一つ学校の校長先生、PTAの皆さん、教育委員会を含めて、本当に子どもが一番安全・安心に生活できるのはやはり学校の中だということで、空き教室を使わせてもらったり、また学校の中に増築して学童保育をさせてもらったりということの一つ一つ続けると、全部の学校にできました。</p> <p>これは檀原スタイルと我々は偉そうに言っているんですけれども、檀原から発信させてもらった公設民営の学童保育のやり方でありました。実は、こども園がうまくすんなりとできたのは、福祉部門の職員さんと教育委員会の職員さんがやはりうまくやっていたからかと思います。</p> <p>ただ、檀原市では、「市がつくれますけれども、後は任せますよ。」という公設民営という方式を取り入れているんですが、見直す時期が来ていると思います。特に来年から小学校6年生までというたくさんのお子を受け入れることになりますので、今までと同じやり方ではちょっとしんどいかなということで検討しています。お母さん方がより楽に、負担がかからないようなやり方を考えていきたいと思っておりますので、またご意見等がございましたら教えてください。</p>

意見②	松井桜井市長
	<p>先ほど今西さんから大神神社の周辺地区での取組についてお話していただき、地域の活性化に向けて本当に頑張っていたいておりますことを、心から感謝申し上げたいと思います。</p> <p>また、今西さんのお話の前に、先ほど広域連携のお話がいっぱい出ていましたので、ちょっと紹介しておきたいと思います。</p> <p>橿原市と高取町と明日香村とは、世界遺産を軸として中和地域の振興を通じて今やっております。そしてこの10月に、奈良市と天理市と桜井市で、山の辺の道を通じた連携協議会ができました。そして、もともと桜井市、曽爾村、御杖村とは、広域連合のふるさと振興事業を通じて、まちづくりをやっております。この間、奈良と天理と桜井の3市の市長が集まった話の中で、「確かに奈良市の方へたくさん観光客が来られる、外国人も来られる、そういう中で、山の辺の道を通じて天理へ、そして歴史文化の発祥の地である桜井へ、そして桜井から明日香へ、明日香から藤原へ、そして平城へというような形で広域連携になれば宿泊型になっていくので、3市も力を合わせてやっていこう」というようなこともお話させていただきましたので、ちょっと紹介させていただきます。</p> <p>桜井は、先ほど今西さんからもお話がございましたお酒の他に、三輪そうめんとか、木材産業とか、皮革産業とか、また新たなものとして笠そばとかがあります。このような価値のある地域物産を全国へ、また世界へ紹介していかなければならないとそのように思っております。</p> <p>今西さんが行っておられます、先ほどお話がございました酒蔵ツーリズムについて、日本酒のブランドの価値を高め、あるいはプロモーションを行っていただく先駆的な取組をしていただいているということに感謝いたしておりますが、民間1社だけでは限界があると思います。やはり行政も挙げて一緒に頑張っていきたいと思っております。</p> <p>まず桜井市には、すばらしい文化遺産がたくさんあります。だけど、それが十分に生かし切れていません。そこで、点として点在する文化財を線として時代別、ジャンル別、地域別に整理して、面としてストーリー化を図って活性化をしていこうというように、歴史文化基本構想を掲げております。</p> <p>それとともに、今、ブランド認定制度の整備に着手をしており、来年にはそのような形でブランドとして認定するものでございます。プレミアム商品として、ブランドのイメージを向上させる取組でもあります。既存の商品の品質を改良して、また新たな商品の開発を促進していくことで、桜井ブランドを確立していきたいとそのように思っています。</p> <p>それと同時に、首都圏を中心として行われている観光物産のプロモーションについても、充実させていきたいと思っております。今後は、桜井ブランドを全国発信するために、プロモーションにも力を入れて、官民一体となってやっていきたいと思っております。そして、桜井市の地域性、特殊性を生かした地域産業の商品サービスの開発を促して、中長期的には交通の結節点に道の駅のようなものの整備を行い、各地との拠点を結んで、そこで販売もしていく、そして雇用も生んでいく、そのような取組をしっかりと頑張っていきたいと思っております。</p> <p>これからのまちづくりは、地域と行政が一体となった取組が必要であります。今西さんには、どうぞこれからも我々と一緒に官民一体となって頑張っていって、中南和の地域の活性化のために、ともに頑張らせていただきたいと、そのように思っております。</p>

意見③	植村高取町長
	<p>明見さんが取り組んでおられるのは、薬草栽培やそれに関連するサプリメントなどをつくっていくというプロジェクトですが、私が先程申し上げたように、財政再建を果たした後のこれからの高取町の基本となる政策の一つの柱として、農業の活性化と関連させた薬草栽培を活用した「薬のまち高取の復活」をテーマにしています。</p> <p>実は、明見さんはつい最近まで高取町の職員で、新しい課をつくり中心的に働いてもらおうと思っていたら、突然「辞めます」と言われ、今の取組を始められましたが、非常に良い意味で高取町行政と民間のコラボができています。</p> <p>高取町の土佐街道が活性化しましたのも、雛めぐりというイベントを3月の1ヶ月間やっているのですが、これも住民が主体なのです。住民がどんどん自分たちでやっていく、それを行政がバックアップする。資金不足の点はいろいろ知恵を絞って県の補助金をいただいたり、また、高取町からも補助金を出す、このようなことをやっていますが、あくまでも住民主体です。ここでも雛めぐりをモデルにしながら、新しい薬プロジェクトを第2の成功例にしていきたいと思っています。</p> <p>荒井知事が掲げておられる大和の漢方の復活についても、明見さん達が苦勞してくれています。商品が小ロットというハンディキャップがありますが、かといって沢山つくっても、売れなかったらリスクが非常に大きくなります。そのため、行政としてバックアップできることは精一杯やっていきたいと考えていますし、行政とのジョイントもしていきたいと思っています。</p> <p>薬草栽培を拡大していくことによって、耕作放棄地や遊休農地がなくなる、あるいは縮小していくことになります。それと同時に、薬草が漢方の原料になります。そのため、薬草を栽培し、収穫し、商品化し、販売する、いわゆる6次産業化に向けたテーマとして取り組んでいきたいと考えています。その一翼を明見さん達に担っていただければと思っています、薬草を通じて高級ブランドの加工品を開発してもらいたいです。</p> <p>また、漢方でも薬ということになりますと、厚生労働省の許認可の問題もあります。幸いにして高取町にはまだ17～18の製薬会社がありますので、これらの企業とタイアップしながら薬草を活用したサプリメントの開発を検討していただいています。</p> <p>さらに、薬業連合会の会長さんからは、「すぐに大手の漢方メーカーとのジョイントはできないかもしれないが、高取ブランド、もしくは奈良ブランドの漢方薬であれば、非常に小回りも利くので小ロットでもできますよ。」という話もしておられます。</p> <p>このようなものにうまく取り組んでいくことによって、多角的に、また、明見さんのグループだけではなく、高取町で農業を考えておられる方、定年退職はしたけど元気だよというシニアの人達が、健康で長生きしてもらうための働き場所として展開できるのではないかと、少し広範囲な希望も含めて、薬草栽培を含めたプロジェクトを是非展開していきたいと思っていますので、知事にもご理解を賜りながらバックアップしていただければ有り難いと思います。</p>

私は明日香村地域振興公社の代表もやっており、下田さんと一緒に取り組んでいる方なので、意見というほどのものではないんですけれども、申し上げたいことが幾つかあります。知事が最初にいろいろ説明していただいた数字があります。数字がないと、基本的にはなかなか話が進みません。何か祝詞を上げて、実際にいろいろなものが動いていかないというのが現実だと思います。

先ほど外国人の方が結構多くなっていますという話がありました。実は、飛鳥地方には3、4年前までほとんどいなかったと私は認識しております。見かけませんでした。その時には、実は、奈良市域は外国人の方がかなり増え始めていたと認識しております。我々に受け入れる体制ができていなかったんじゃないかと反省しております。それが今どうなってるかといえば、徐々に増えつつあります。でも奈良市とか生駒市とか、そういう地域と比べると外国人の方は少ない。というのは、我々が受け入れられる容量といいますか、いろんな仕組みが足りていないんじゃないかということを感じております。

例えば、パンフレット1つにしても、実は、私どもの明日香村の中では、全部英語と日本語のフリーペーパーを配っております。地域づくりを応援しようと言って、大阪の民間の企業さんがつくっているものなんですね。こういう方々とどうやって連携してつくっていくのかということも、もうちょっと知恵を出していかないといけないと思っております。そういう数字をもとにして、では、何をすべきかという議論が必要だと考えています。

もう一つ、いつまでに何をするという議論を、ぜひ皆さんと一緒にできないかと思っております。

明日香村では、キトラ古墳壁画体験館ができ上がるのが平成28年の秋です。檀原市長は道路づくりに一生懸命取り組んでいただいております。壺阪山の駅前には高取町長、一生懸命頑張りますとおっしゃっていただいた。そのようないろいろな取組を期間を決めて一緒にやりましょうということをぜひできないかと思っております。私がぜひ皆さんと一緒に目標を立てたいのは、東京オリンピックです。東京オリンピックの時は、日本書紀ができて1,300年になります。ぜひ、一つの期間として、一緒に取り組むべきじゃないかというように思っています。

もうひとつ、消費者、観光ですと来訪者の視点で何かをつくるということが、やはり足りていないんじゃないかと、自分で反省しています。自分が外国、あるいは観光地に行った時、嫌だと思ってしまうようなことを自分たちはしていないかということを感じていまして、それを一つ一つ削っていく作業というものが、我々として要るんだろうと思っております。

そのためにも、飛鳥ニューツーリズム協議会というものは、教育旅行の受け入れ窓口だったんですけれども、もう少し広く組織化していかないかというように思っています。明日香村の団体だけではなく、多くの団体さんと一緒に何かできないか、首長さん方は皆さんそのつもりだと思んですが、何かそういうような取組ができればいいと思っておりますので、ぜひ今日ご参加の皆さん方も、そういうことに一緒に参画しようと思っていただければ、きっと下田さんの方も喜ぶんじゃないかというように思っております。

いろいろなご意見を伺って、感想というようなことですが、このように首長が並んで、また住民の方と意見交換するのは楽しいですね。議会では質問、答弁ですけど、いろいろな意見をいただく、それに対して反応できるというのは、やはり議会の本質はそこにあって、質問されるだけでなく、こう思うがどうかというような形態があり、それをどのようにまちや県の方に向けていこうかという議員と首長の対話ですけども、このように住民の方が来られて、コーディネーターがおられて、会話するのはとても楽しいです。

また、議会では首長は1人しかおりませんので、このように首長が5人も並んで何か一緒にしゃべることもありませんし、寺岡先生が、まちには個性があるとおっしゃったのですが、首長も個性があると思われませんか。見た目の個性もありますけれども、そういう見た目だけではなく、総じて声が大きかったり、主張される首長の関心事項はとても大事ですよ。檀原市長が「子育て」とおっしゃると、やはりそのまちが子育てがよくなるのは確かです。明日香村長は、県庁職員だったんですけど、力を蓄えて村長になられたわけですから、これからも頑張っていたいただきたいと思います。

さて、いろいろなテーマが出ました。大変おもしろい、関心のあるテーマです。

まず、森岡さんのおっしゃった子育てについてですが、有配偶者女性の出生率という点で見ますと、檀原市は奈良県平均を大幅に上回って77.8となっています。子育て環境が良いと有配偶女性の出生、お子さんをつくりやすくなるということに繋がります。たくさんつくっていただくのが少子化対策。それには有配偶者になることが大事なので、これはこども園とか保育所をつくるだけではなく、有配偶になっていただくという行政課題があり、婚活などおせっかいを多少行政もしないといけないと思っています。また、保育士が不足しているんですね。保育士が不足している結果、待機児童がたくさんあるということですが、待機児童が一番多いのは奈良市と生駒市で、やはり需要が多いということがございます。

また、次のテーマとして、松井市長、森川村長、今西さん、下田さんが観光文化のことをおっしゃっていただきました。観光文化は奈良の一つの大事なテーマでございます。その中で文化財をどう活用するかということです。ご報告になります、NHKの大河ドラマで、2020年のオリンピックイヤーに奈良を舞台に作成してほしいとお願いしてきました。主役は誰かというように聞かれましたので、主役は推古天皇・聖徳太子から天武天皇・持統天皇、奈良に行きまして聖武天皇・光明皇后と、この6人を主役にしてほしいと言いました。その間150年以上ありますので、まさしく大河ドラマです。桜井、飛鳥に来た文化は、仏教一つとっても、遠くインドから中央アジア等を回って来ているわけがございますので、渡来物ということで、オリンピックイヤーにふさわしい国際性のある奈良文化ということでございます。

先日、両陛下が飛鳥に来られ、ご進講いたしました時に、「藤原宮は日本で初めての都城ということですが、その前は飛鳥で天皇1代ごとに住居を借りていました。宮どころから都城へ変わった最初の首都が藤原宮でございますが、藤原宮の大極殿と伊勢神宮の外宮とは真東西に位置していて、北緯34度30分と34度29分でございます」と申し上げました。「伊勢と藤原宮は大いに関係があります。同時期に、持統天皇が両方一緒につくったということでございます。ちなみに持統天皇と中国唯一の女帝であります則天武后は同じ年に即位されております」というようなこともご進講いたしました。地元のそういう文化ネタというのは知っておくと、人に説明できる時におもしろネタになりますのでご紹介しました。

また、下田さんがおっしゃいました外国人交流は、なかなか立派なお仕事で、ありがたいと思います。猿沢池のそばにある猿沢荘を改修して、外国人交流館というものをつくりたい。外国人がどこに行きたいか、どこに泊まりたいかということをお案内しますが、例えば、500円ぐらいで、毎日飛鳥へバスを出すといったようなことを考えております。飛鳥に泊まりたいければ、ここで聞けば飛鳥に泊まる場所を紹介するといったような機能を持つ外国人交流館というものを県営でしようかと思っております。

来年1月の初場所で奈良県知事賞というのを大相撲の優勝力士に贈るんですけども、立派なトロフィーができ上がってまいりました。副賞で「ちゃんこ大和づくし」を300食贈るんですけども、「ちゃんこ大和づくし」の中にトウキの葉を入れた大和肉鶏のつくねを入れました。結崎ネブカなど、みんな奈良でとれるものばかりを贈ろうと思っています。

大和トウキを食材に使うということについては、「漢方のメッカ推進プロジェクト」の中でやり始めています。今日の読売新聞の論説で、渡辺賢治先生という慶應大学の先生の「漢方、生薬を日本でも」という記事が掲載されていました。漢方、生薬を、トウキとシャクヤクを中心につくるということですが、これから大事だと思うことは、良いものしか出さないということです。奈良のトウキを大和トウキ、奈良トウキとして、中国とは違うぞということを志し、そのためにゲノムという育種により良い種をつくり、良い栽培をして、農薬は使っていないということを証明して、売り出さないといけないというようなことを考えています。「これは安全で、また栄養素の成分の良いものが入っています。成分は分子栄養学ということになるんですが、トウキのこれこれの成分がこれだけ入っている大和トウキです」というように、薬効のもの成分を証明しながら出す。それが認定の一つの正統的な手法だということに思っております。

最後に、高取町長さんが財政に苦労したとおっしゃいましたが、奈良県の市町村長さんは皆さん、これまで財政で苦労されておりました。県はできるだけ助けたいと思っておりますが、やっと奈良は市町村の財政も良くなってきて、これからまちを良くしようと、そういう兆しになってきましたので、市町村長さんからこういう明るい話がどんどん出てきているように思います。これから楽しみだと思って、みんな頑張っていきたいと思っております。

意見⑥	森岡氏(檀原市在住 女性)
	<p>森下市長から学童保育のことについてお話がありましたが、現在は、先ほどおっしゃっていただいたように公設民営ということで、学童に通っている児童の保護者がそれぞれ協力しながら放課後児童クラブを運営しています。</p> <p>内容としましては、学童保育の定例会の開催、クラブのお掃除、草抜き等から、国や市からいただく補助金など金銭面の管理まで、全て保護者が行っております。市長さんもおっしゃっていただいていたけれども、やはり仕事をしながら、保護者だけで運営するのはなかなか難しいものがあるということで、檀原市では、来年度、運営協議会を設立していただくように聞いております。やはり市からの支援をいただきまして、保護者も関わりながら、より良いものにしていきたいということで、また、働いているので子どもを学童に預けて、そちらで保育していただいておりますので、私たちの負担が軽くなれば、やはりそれもありがたいことだと思います。</p> <p>子どもが安心して過ごせる居場所があることで、私たち母親も安心して働くことができると思いますので、運営協議会を立ち上げていただくことはすごくありがたいことだと感じています。私たちの子どもたちが将来、檀原市、ひいては奈良県を支えていく大人になってくれるような子育てができたらと思っています。</p>
意見⑦	今西氏(桜井市在住 男性)
	<p>先ほど松井市長がおっしゃった桜井ブランドの全国発信、そしてまた広域連携をし、行政、民間との連携による集客というお話に関しまして、非常に共感いたしますし、ぜひ一緒にこれからご指導いただきながら取り組んでいければと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>さて、1点質問がございます。質問内容は今話題になっている「人口減少からくる地方創生」に関して、桜井市でどう取り組まれていくのかということをお伺いしております。というのも、人口減少という大きな問題が解決されない限り、我々が今住民たちで取り組んでいる地域活性化、いかに集客してお金を落としてもらおうかということに関して、根本的な解決ができずにいるというように思っております。よって、人口減少する中で、どのように取り組まれていくのかということをお聞かせいただけますか。</p>
意見⑧	明見氏(高取町在住 女性)
	<p>私は、3年前まで役場の職員で、10年間農業行政に関わらせていただきました。地域の農家の方と一緒に、農業の大切さや農業に対する地域の思いについて、いろいろな勉強させていただき、行政としてだけでなく、自分に何ができるんだろうということをいろいろ考えていく中で、行政としてではなくて、一住民として農業に携わりたいというように思って、現在に至るわけです。</p> <p>ずっと10年間、農家の方やいろいろな団体さんに励まされながら、手を変え品を変え、いろいろな事業と一緒にさせてもらって、勇気もいただきました。ただ、抜本的な課題が解決できなかったという思いが自分の中ですごくあったので、やはり地域づくり、まちおこしする中では、雇用や地域の経済として発展する何かがないかというようなことで、薬草栽培、薬のまちというところに取り組みさせていただいた経緯があります。</p> <p>やはり葉っぱ産業みたいに地域の方が雇用を生み出して活性化していくというのが私の願いでもありますし、今、薬草栽培についてなんですけれども、加工品も含めてですが、薬事法の壁がありまして、薬効が書けないということがあります。現在も薬事課の方に相談しながら、いろいろ考えているんですけれども、大和トウキや奈良県で薬草をしようと推奨されている作物について、このような効果があるんだというような、何かアピールできる取組がなければ、薬効を書くことができない加工品については、売りづらいものがありますので、またいろいろ頑張っていたければと思っています。</p>

意見⑨	下田氏(明日香村在住 男性)
	<p>森川村長、貴重なご意見ありがとうございます。日頃から言われているところでございますので、肝に銘じてやっていきたいと思えます。</p> <p>我々、半分公的な団体かなというところではありますが、先ほども言いましたように、ボランティアではなく、コミュニティビジネスとしてやっていくということを公言している以上、公を意識しながら民間のように数字を、そういったところを必ず追っていかなければいけないと思えます。統計的な数字でありましたり、いついつまでに何をやる、それから顧客目線、そういったところはより一層意識していきたいと思えますので、またご指導よろしくお願ひします。</p> <p>それと、本日たまたま私がここで明日香村住民ということで座って偉そうに発言しておりますけれども、今日来ていただいておられます受け入れ民家さんでありましたり、それから、私と同じく机を横に並べて仕事をしている仲間たちが、日頃本当に四苦八苦しなから仕事を進めておられます。</p> <p>昨年、たくさん関東の学校が来た時に、1週間切っている中で、まだ受け入れ民家が決まらないというような状況もございました。夜も眠れない日々が続きましたけれども、その時に明日香村の役所の方々、村長、副村長、課長全て、檀原市の皆さんも本当にお世話になってやっと埋まったというところで、本当に、悩みを共有できる仲間がいるとこんなに気が楽になるのかというような気持ちがありました。ですので、この事業は、住民の方々、皆さんが主役になれる事業かなと思えます。ぜひいろいろな方に一人でも多くご参加、ご協力いただきたい、そのように今後進めていきたいと思えますので、よろしくお願ひします。</p>

意見⑩	森下檀原市長
	<p>藤原京と伊勢神宮は同じ、持統天皇と則天武后が一緒というようなお話を、先ほど知事がおっしゃいました。実は、檀原市は中国の洛陽市という、中国の4,000年の歴史の中で1,500年も都があった場所と姉妹都市なんです。洛陽市に龍門石窟という世界遺産がございます。2,000体以上の仏像が掘られているところなのですが、そこで一番大きな石仏が則天武后に似せてつくった仏像なんですね。どうしてそんなことを言うのかといいますと、実は、その仏像と同じものが東大寺の大仏さんらしいです。今、知事のお話を聞きながら、洛陽市の人は則天武后だと言っていたけど、実は、持統天皇をあらわしてののではないかというように、ふと思いました。皆さんも不思議だと思うんですが、中国とのつながり、韓国とのつながりも含めて、我々の地域にはそんな歴史があるんです。今さらながら、それをじっくり考えないといけないというようにも思いました。</p> <p>先ほど寺岡先生が言われた「人口減は全員参加」とは、そのとおりであって、森岡さんをはじめ女性の皆さんにもやはり社会参加してもらって、働いてもらう、一緒にチームとしてやってもらうということがなかったら、我々の地域はしんどいです。そのために子どもたちの保育のこと、それから教育のことに力を入れているんですが、今一番頭が痛い問題は、子どもたちの学歴のことです。</p> <p>知事からも先日、会議の場で説明があったのですが、奈良県はこれだけ学歴の高い県であるにもかかわらず、小学校、中学校の全国模試をすると平均以下なんです。その中で一番の要因が、実は、貧困なんです。貧困のために塾にも通えないのは当然ですけども、帰ってもお母さん、お父さんがいないから全然勉強しない、そのように生活が乱れているという子どもたちが多いいです。そんな中、我々が一番しないといけないのは、こども園と同じように、幼児の子どもたちの保育、教育にもっと力を入れないといけないのではないかと思います。</p> <p>もう一つ言いますと、貧困家庭の子どもたちにこそ、時間をかけていけないといけないと思えます。貧困の連鎖ですとずっときていますので、それをちょっと言いたかったのです。</p>

意見⑪	松井桜井市長
	<p>先ほど知事から、各地域の財政状況が非常に厳しい中で、やっと今、少しは明るさが見えてきたというお話がありましたが、桜井市も同じです。近隣も皆一緒に、やはり長年財政状況が厳しかったから先送りされている問題が山積みしています。だけど、今、少し明るさが見えてきました。今こそ先送りされている問題を正面から受けとめて、一つ一つ解決しながら、まちづくりにもしっかりと取り組んでいかなければならない、大事な時期であると思います。</p> <p>人口減少の中、どのようにしていくかというようなことで、地方創生という言葉がありますが、桜井市としても、中長期的なことを見越して、地方人口ビジョンと5カ年の地方総合戦略を来年にはしっかりと練っていきたいと思っています。</p> <p>最初に話をさせていただきましたが、今西さんの地元は三輪です。昨日、県と連携協定を結ばせてもらいました。5つありまして、その1番手に三輪の沿道整備、三輪のまちづくりを掲げております。そういう中で、これが三輪ににぎわいを取り戻せる最後のチャンスではないかと、そのようにも思っておりますので、民間と行政と、また住民の皆さんと一緒に、知恵を絞ってしっかりと頑張っていく、その第1番が今西さんの近辺だというように思っております。そのようなことも含めて、人口減少に対応して地域資源を生かしたまちづくりにしっかりと取り組んでいきたい、そのように思っております。今西さん、よろしく願いいたします。</p>

意見⑫	植村高取町長
	<p>今、明見さんからありました薬事法等の関連ということについては、なかなか私の方で解決できる問題でもありませんし、お答えできる問題でもありません。ただ、共通の課題として、今後、県のご支援をいただいたり、厚生労働省の薬事法に対してどう対応していくかということ、ともに考えていきたいというように思っております。</p> <p>また一方、荒井知事との話の中で、今やはり広域連携というのが非常に大事ですし、それからまた非常に整備してきているというお話がありました。特に我々の高取町、橿原市、明日香村で、いろいろな広域の連携事業をやってまいりました。そういう中で、今後、幾つか課題が出ました医療ツーリズムだとか、観光、民家ステイとか、いろいろなものを含めて、これからまた3市町村で連携しながらいろいろな問題に取り組んでいく新たなテーマが、今回のフォーラムで見つかったというような気がいたします。そういったものを含めて、これからまた、今日は桜井市長もお見えでございますので、いろいろな意味で、この4地区が連携できることを模索しながら、県中南部の発展に寄与できればと、このように思っております。</p>

意見⑬	森川明日香村長
	<p>できるだけ端的に申し上げたいと思います。ぜひ荒井知事、大河ドラマの誘致をよろしくお願いいたします。皆さんも応援してください。これが一つの爆発力になると思います。我々はその間に、一生懸命、地域の側でメニューをつくらないといけないと思います。それは村もそうですし、皆さんもそうだと思いますので、ぜひ、大河ドラマに来ていただける地域になりたいというように思います。</p> <p>それともう一つ、明日香村もそうですし、広域の地域の皆さんが、結局どんなに人に来ていただいても、地域の中に人がいなかったら地域は存在しなくなります。やはり子育てをちゃんとし、いろいろな方々が来やすい地域、住みやすい地域にどうやってしていくのか。うちの村は、ほとんど20代の人が出ていきますから、30代になったら帰ってきてもらおうと思っています。その時にお子さんを連れて帰ってきたらいいなと思っています。橿原市にお住まいの明日香村にゆかりの方はぜひ帰ってきていただきたいと思っています。</p> <p>また、地域の中で、人ができるだけ学ぶように、外に出ていかないように。地域というのは村だけではなくて、大きい地域ですね。そういうことも皆さんと一緒に考えなければいけないと思っています。それを指揮してくれるのは県だと思っていますので、それをぜひお願いしたいというように思っております。</p>

総括	奈良女子大学文学部 寺岡教授
	<p>大学にいろいろな国からの留学生がいるので、国に里帰りした時に、奈良や近畿圏の観光ガイドブックを買ってくるようお願いしています。たくさんの国で奈良や近畿圏の観光ガイドブックが販売されているのですが、奈良市以外が掲載されていないガイドブックもあります。</p> <p>これでは、中南部に来ていただけません。でも、逆に言えば、海外の観光ガイドブックに載るようになれば、世界の方に注目してもらえるだけのポテンシャルがあるということなんだということにも思いました。</p> <p>コンテンツは十分あると思いますし、場所はオンリーワンですし、非常に期待の持てる地域だと思っていますので、やはり情報発信をどう頑張っていくかということだと思います。</p>

挨拶	荒井奈良県知事
	<p>皆さんにご報告もありますので、かいつまんでお話しします。大河ドラマの件は、NHKの経営委員長に依頼し、高市総務大臣にも陳情してきました。大河ドラマは、衣装代が高いのですが、これは県が後で買っていいと言っています。それと、スタジオセットは、浄御原の天武天皇が住んでいたスタジオのセットを建てて、そこにしばらく置いておいたらどうかと思ったりしています。スタジオのセットを建てて、当分置いておいて見物していただくというアイデアです。</p> <p>それから、森岡さんがお話された子育てについて、市長が熱心になっていることはよくわかりました。県も就学前教育を熱心にしようかと思っています。就学前に教育すると運動神経が発達したり、統合神経が発達するので良いと思っています。また、アメリカの実験で、就学前に貧困家庭の子どもにバイオリンを教えると進学率が随分上がったという報告が出ていますので、バイオリンを教えることなども考えられます。</p> <p>それから、修学後としては、県立大学でシニアカレッジをやりました。定員200人のところに500人も来て、秋の学園祭はシニアの方がフラダンスを披露したりして、学生を圧倒しているんです。中南和にもそういう分校をつくってほしいとのご意見が多く、畝傍高校にお願いして、部屋を改装して中南和のシニアカレッジ分校をつくろうということも、12月の補正予算で要求して、無事通っていますので、ご報告です。</p> <p>あと、この地域はとても良い地域でして、耳成高校の跡地にJAならけんまほろばキッチンができました。高校の建物跡には県の職場が集合するんですけど、屋上が良い場所なので、開放して屋上庭園をつくる工事をしており、まもなく完成いたします。ここは二上山と大神神社のちょうどその線上にあるんです。これは東西ですけど、その線上にある、二上山の夕日が屋上からばっちり見え、振り向けば大神神社という場所なんですけれども、そこから大和三山が三山一緒に見えるんです。こんな場所はめったにないと言って楽しみにしているんですが、3月7日に屋上を開放いたします。</p> <p>また、歴史展示で、「今日は何の日」というものを展示しています。「今日は何の日でしょう、天皇誕生日です」というようなものです。最近のことなんですが、大昔の何の日かというものも始めました。例えば、「1,260年前の12月21日は何の日でしょう。それは鑑真さんが鹿児島に上陸した日」というようになるんですが、そのようなことをちょっとクイズ仕立てで展示しています。文化を1,300年ぐらいあつという間に飛ぶというような、「大化の改新645年は何の年でしょう。玄奘三蔵が長安へ帰ってきた年です。それと1,300年後は終戦の年です。」というように脈絡を持って紹介するようなことも進めています。</p> <p>まちづくりについてですが、天理、桜井、明日香と山の辺の道が続きますが、ぐるっと山の辺の道をつくろう、奈良の山麓をぐるっと回る、山の辺の道のようなものをぐるっと回そうということを今練っております。その中で、いろいろ農村のものを売っていただいたり、楽しみをしていただいたりということでございます。</p> <p>また、桜井の安倍というところで、「なら食と農の魅力創造国際大学校」ということで、平松さんという、すごく良い人が出てきてくれるんですが、オーベルジュという簡単な宿泊施設とおいしいレストラン、近くでとれる農産物を料理をするということで、遠くからもここを目指して来ていただけるように進めています。オーベルジュを山の景色の良いところに公設でつくって、シェフを探してやってもらおうという「ぐるっとオーベルジュ構想」ということも検討しております。</p> <p>そこから、今西さんがおっしゃいました酒蔵プロジェクト、長浜とか他の酒蔵と違うのは、奈良県の場合、間に余計な店がたくさん入っているということです。きれいな店が連なっていると、とても良いと思います。これはなかなか難しいんですけども、なるべく雰囲気のある店をぽつんぽつんではなく、まちがそのように続くように、大神神社の参道プロジェクトは、大鳥居から神社までの参道を、昔の雰囲気の良い参道にしたいというプロジェクトでございます。</p> <p>最後に、寺岡先生からお話のあった梅守さんというすし屋さんですが、EGLの袁社長と個人的なコネクションがあり、すごく流行っています。EGLの袁社長は、今年の奈良マラソンにも、香港や台湾から200人も人を送ってこられてました。今度は飛鳥とか、南のほうにもコネクションを持ってもらえないかと思い、チャンスを狙っています。そのようなことで、人がどっと来るような時代になると思います。</p> <p>それから、熊野で、外国人がサイトを使って熊野の発信をしているんですね。熊野とか中辺路なんかは、そのサイトを見て来られた外国人ばかりだということですね。行ってみたら、南アフリカ人の女性が歩いておられました。そのような時代になっておりますので、個人的なコネクションも大事、皆さんの活躍が大いに期待されますということで締めくくらせていただきます。</p>